なぜ英語が話せないの？

〈63〉

会話上達法第三部

反復練習の努力を

相づちが打てれば一人前

英会話で、相手の話に上手に相づちを打てれば一人前。

「Really?」(本当?)「Is that so?」(そうですか)でもなんとかなるが、やはり相手の話の内容にピッタリの「まあ、そうですか?」が口から飛び出すよう訓練する必要がある。

例えば「He passed away last year」(昨年、亡くなった)なら「Oh, did he?」(まあ、そうでしたか?)「I can speak French」には「Oh, can you?」「Today is my birthday」は「Oh, is it?」とする。この相づち法は、相手の言った主語と動詞をひっくり返して聞き返すだけ。その際、固有名詞は代名詞、普通動詞は助動詞に変え、慣れるまで練習することが大切だ。

「She is~」は「Is she?」「Tn't it?」「She runs very fast, does'nt she?」は「Yes, does'nt she?」などの練習を繰り返す。

よく似た表現で、すらすら使えれば便利なのが付加疑問文。日本語で言えば「…ですね」にあたる。「良いお天気ですね」なら「(It's a) Beautiful day, isn't it?」このときの相づちは「It sure is」か「Yes, (it is) isn't it?」(本当にいい天気ですね)となる。また「It was a good game, wasn't it?」(いい試合でしたね)には「Yes, was I」「I don't like him」には「Neither do I」(私も好きじゃない)「He doesn't married」は「Neither have I」(私も結婚していない)「I can't speak Spanish」には「Neither can I」と相づちを打つ。

相づちの中で特によく出るのが「私もそうです」という表現。「I hope they'll win」に「So do ither can?」

否定文の場合も要領は同じ。「I don't play golf」には「Oh, don't you?」「She doesn't care for western food too much」(洋食があまり好きでない)は「Oh, do?」といった具合。

否定文の場合も要領は同じ。「I don't play golf」には「Oh, don't you?」「She doesn't care for western food too much」(洋食があまり好きでない)は「Oh, do?」といった具合。

語学の学習は反復練習が必要

こうした言い方は、反復練習して、さっと口に出てくるように努力したい。最初はなじめなくても、訓練次第で驚くほど上達するはずである。